



社会参画力を育む総合的な学習の時間

総合的な 学習の時間

I はじめに

人工知能やIoT（モノのインターネット）化が進み、第4次産業革命といわれる現代社会において、仕事の雇用体系なども大きく変わるといわれている。そうした変化の激しいこれからの社会においては、新たな価値を創造する力が求められ、新学習指導要領においても、「何を知っているか」だけでなく実際の問題状況で「何ができるか」、「理解していること・できることをどう使うか」、「どのように社会や世界と関わり、問題を仲間と解決しながらよりよい人生を送るか」ということが求められている。

こうした現状をふまえ、本校の新しい「総合的な学習の時間」では、「社会参画力」を柱とし、地域や社会について考える探究的な学習を通して、社会の多様な問題を発見し、よりよい社会を形成するために他者と協働して主体的に解決に向かい、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することとした。教科や領域での知識や技能等を、横断的、総合的に活用し、地域・社会・大学とのつながりや保護者との連携を大切にしながら探究的な活動を通して概念的知識の獲得を目指すものである。

なお、本校の総合的な学習の時間は、平成29年度からは、国立教育政策研究所教育課程研究指定校を受け研究を進めている。

II 総合的な学習の時間の研究内容

1 総合的な学習の時間で育む社会参画力

本校の「総合的な学習の時間」で育む社会参画力を、新学習指導要領で求められる資質・能力との関連もふまえ次の通り設定した。

社会参画力とは

個々がこれからの社会で直面する課題や社会の多様な問題を発見し、よりよい社会の形成のために、他者と協働して主体的に解決へと向かうために必要な、以下の5つとする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

- ① 問題や課題を発見する力
- ② 情報を活用し、プランニングしていく力

＜学びに向かう力、人間性等＞

- ③ 他者と協働する力
- ④ 社会の一員として一翼を担うことの意識や態度

＜知識及び技能＞

- ⑤ 様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識

2 社会参画力を育む学び

① 「問題や課題を発見する力」を育む手立て

日常生活や社会に漠然と目を向けても問題点や課題は明確にはならない。自己を見つめ、個の内面から事象をとらえる感性や問題意識が揺さぶられてはじめて具体的な問題点を発見し、自己の課題を設定することができるものとする。本校の総合的な学習の時間では、様々な思考ツールを活用しながら自分の考えを整理することで問題点を明確にし、それぞれの課題を具体的に設定していくものとした。また、問題や課題は、集団での設定から個人での設定へ、自分に関わる身近なところから社会といった他者に関わるまで発達段階に応じて設定し、より具体的に問題や課題を発見する力を養っていきたいと考えている。

第1学年では、あいの里地域についての課題をグループで設定し、探究的な学習を2回行うこととし

た。1回目で生まれた更に調べたいことや追求したいという気持ちを2回目の探究的な学習につなげ、より具体的な課題を設定することで、見通しをもった課題の解決の取組につながることを期待した。第2学年では、イメージマップやフィッシュボーン図、自分年表等の思考ツールを活用して、自分の考える「生きがい」について考察し、個人で課題を設定していく。また、職業体験を通して、それぞれが設定した課題について自分と社会とのつながりや自己の生き方を考え、課題の解決を目指すものとした。第3学年では、イメージマップ等の思考ツールを活用しながら自分の理想とする社会を考え、これからの課題や問題点を明確にし、フィールドワークなどの調査活動を通して解決に迫っていくものとした。

② 「情報を活用しプランニングしていく力」を育む手立て

様々な情報が溢れる現代社会を生きていく子どもたちには、あふれる情報の中から自分に本当に必要な情報を選択し、主体的に自らの考えを築き上げていく力が必要となる。本校の総合的な学習の時間では、課題や目的に応じて情報を適切に収集、整理・分析し、まとめ・表現していく力を発達段階に応じてより高度なものにしていきたいと考えている。

第1学年では、聞き方、話し方、インタビューの仕方、インターネットや大学図書館などの利用やプレゼンテーション資料の作り方などの情報を活用しプランニングしていく力の基礎を養い、あいの里地域でのフィールドワークを通して確かな力を育んでいく。第2学年では、第1学年での基礎をもとに、より効果的な聞き方や伝え方の工夫をし、大学生や保護者、職業体験での各事業所の方へのインタビューなどの調査活動を通して、より実践的に情報を収集し活用する力を育んでいく。3学年では、5W1Hを活用したマップや、ハイ・ローマトリクス、研究の設計図などの思考ツールを活用して、思考を広げたり整理したりしながら情報をより多角的に分析、整理し、まとめていく力を育んでいく。情報のまとめにおいても、ポスターセッションや、パネルディスカッションなど形を変えながら、また発表する形態も集団での発表から個での発表へと変えながら、発達段階に応じて高度化させていきたいと考えている。

③ 「他者と協働する力」を育む手立て

自己の学びを深めていくためには、他者の存在が欠かせない。自分は考えなかった違う角度からの視点を知ることができたり、個では解決が難しい課題でも、仲間と協働して取り組むことで解決できたりすることもある。個の成長だけでなく、生徒自身が集団の一員としての存在意義を感じ、集団の成長を願い、行動し、成果を仲間と共に実感していくこともまた社会に参画していく意欲につながるものと考ええる。

第1学年では、あいの里フィールドワークの場面を通してグループごとに課題を設定し、計画を立て適宜修正を加えながら協働して取り組んでいく。また、その中で互いの考えや集団としての考えを合意形成し、深めていく力を育む。第2学年では、互いに認め合い、助言し合いながら自分の未来像がより明確になることを期待し、自分の将来を仲間に語り合い高め合える場面を設定する。また、仲間との関わりだけでなく、大学生や保護者、社会人といった他者との交流を通して、様々な立場の他者と協働する大切さを学んでいく。第3学年では、研究の設計図をもとに、互いに共通の視点をもって研究について考えていくことで、互いを生かし合い研究の質を高めていく。また、討論会では、社会人と共に問題解決に向け語り合い、多様な他者と協働しながら社会の問題に向かう力を育んでいく。

④ 「社会の一員として一翼を担うことの意識や態度」を育む手立て

子どもたちには、将来、社会の形成者としての自覚をもち、様々な問題に主体的に関わり、最適解を

求めながらよりよい社会を創っていくことが期待されている。そうした社会の一員として一翼を担う意識や態度を養うために、生徒の発達段階に応じ、次のように学びの場面を設定する。

第1学年では、まとめ表現の場面として「あいの里子どもフォーラム」を設定し、あいの里について調べた内容を地域の方や保護者などに広く発信することで、地域と自分との関わりや地域の中で生きる自分を考える機会とする。第2学年では、「働くこと座談会」や「これが私の生きる道」発表会を設定し、職業体験を通して働くことについて考えた内容や生きがいについて保護者や他学年の生徒へ語ることで、自己を確立し社会の中で主体的に生きていく力を養っていく。第3学年では、地域や社会の中の問題や課題に対して自分が探究した成果や結論を「討論会」という形で発信する。「討論会」では、保護者や一般参会者の方などとより双方向に意見交流の場面を設定することで、社会のために自分がどのようにかわっていくのかを考え、社会に参画していく意識や態度を養う。

⑤ 「様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識」を育む手立て

これからの社会においては、単に知っている知識だけでは解決できず、これまで学んできた知識や経験をつなぎ合わせたり、様々な角度から情報を捉えたり、あらゆる場面に柔軟に対応しながら主体的に活用していく技能や概念的知識が必要となってくる。本校の総合的な学習の時間では、探究的な学習を通して、教科や領域での知識や技能等を、横断的、総合的に活用し、様々な他者と協働しながら、総合的な学習の時間の学習活動全体を通して情報を多角的に捉える技能や概念的知識を養っていくものとした。

この概念的知識は、探究のプロセスを繰り返し行い、新しい知識がこれまでの知識と関係付けられたり、新しい知識と経験が結びついたりすることで実感を伴い、様々な場面で活用できる知識のことである。教科や領域との横のつながりだけでなく、第1学年から第2学年、第2学年から第3学年といった学年間の縦のつながりも大切にしたカリキュラムを構築し、発達段階に合わせて、より広く、より高度なものになることを目指している。

Ⅲ 総合的な学習の時間の目標

本校の総合的な学習の時間の目標は、これからの社会の変化や生徒の実態、新学習指導要領で求められる資質・能力との関連もふまえ、次の通り設定した。

<本校の「総合的な学習の時間」の目標>

地域や社会について考える探究的な学習を通して、社会の多様な問題を発見し、よりよい社会を形成するために他者と協働して主体的に解決に向かい、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

- ① 探究的な学習を通して、様々な情報を多角的に捉え活用する技能と概念的知識を獲得し、探究的な学習の価値を理解する。
- ② 探究的な学習を通して、自ら問題や課題を見つけ、適切な計画をもとに情報を収集・分析して、他者に表現する力を育む。
- ③ 主体的・協働的に探究的な学習に取り組み、社会を担う一員として、これからの社会構築に向けた意識と社会に参画するための力や態度を養う。

Ⅲ 各学年の目標と年間計画

【1 学年での総合的な学習の時間】

(1) 1 学年での総合的な学習の時間の目標

地域について考える探究的な学習において、仲間と協働しながら、自分と地域社会とのかかわりを考えることを通して、以下の資質・能力を育成する。

- ① 地域社会の課題を解決する探究的な学習の過程において、各教科での学びを活用して課題の解決に必要な知識と技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する。
- ② 探究的な学習を通して、身近な生活や地域社会についての問題や課題を見つけ、目的に応じて手段を選択し、情報を収集する力を身に付ける。また、目的に合った情報をまとめ、分析し、発信する力を育む。
- ③ 主体的・協働的な学びを通して、多様な他者と関わりながら自分の考えを深め、地域社会の一員として、主体的に社会に参画する態度を養う。

(2) 年間計画（50時間）

小単元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
導 入	4 ②	オリエンテーション「総合的な学習の時間とは」 【実践例 1】 T A N - Q ゲームを通して 情報の収集・調べ方	2	・総合的な学習の時間のねらいについて考える。 ・探究的な学びの流れや有用性を体験的に理解する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
あいの 里と はど のよ うな 地 域 な の だ ろ う か	4 ③	インタビューの達人への道①「聞く」 情報の収集・調べ方	2	・「聞き手」が積極的に話し手に関わりながら聞くことで、より多くの情報を引き出し、良好な関係を気付けることを理解する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	4 ④	インタビューの達人への道②「伝える」 情報の収集・調べ方	1	・情報をわかりやすく正確に伝えるために大切な、伝える順番や内容の整理、感情表現などについて理解する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	4 ⑤	インタビューの仕方 情報の収集・調べ方	2	・インタビューについての基本的な発問の仕方を理解する。 ・質問法四原則を学び、ペアインタビューに取り組む。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	5 ①	伝わるプレゼン 情報の収集・調べ方	2	・プレゼンテーションの基本的なスキルを身に付ける。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	5 ②	あいの里はどのような地域なのだろうか① 課題の設定	1	・グループごとに課題を設定する。〈問題や課題を発見する力〉 ・他者との関わり、役割りを分担する。 〈他者と協働する力〉
	5 ③	あいの里はどのような地域なのだろうか② 情報の収集	1	・グループの仲間と共にフィールドワークの計画を立てる。 〈他者と協働する力〉 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	5 ③	あいの里はどのような地域なのだろうか③ 情報の収集	2	・グループの仲間と共にフィールドワークでのインタビューの内容を検討する。 〈他者と協働する力〉 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	5 ④	フィールドワーク①（学校宿泊） 情報の収集、整理・分析	※	・あいの里地域のフィールドワークを行い、インタビュー活動を通して、課題解決に向けた情報を収集する。〈他者と協働する力〉 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	5 ④	フィールドワークの成果発表（学校宿泊） まとめ、表現	※	・フィールドワークの成果をまとめ、発表する。〈他者と協働する力〉 ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	6 ②	あいの里地域の特徴と自分たちとの関わりを考える（中間反省） 課題の設定	1	・フィールドワークの反省から新たな課題を設定する。 〈問題や課題を発見する力〉

小単元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
	6 ④	互いの考えを理解し合うのには 情報の整理	2	・互いに分かり合うために、どのような自己表現が適切かを理解する。 ＜他者と協働する力＞
	7 ①	情報を集めるには、どのような方法があるだろうか① 情報の収集・調べ方	2	・インタビューによる情報収集の方法を学ぶ。(応用) ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	9 ①	情報を集めるには、どのような方法があるだろうか② 情報の収集・調べ方	2	・大学図書館にご協力をいただき、図書館の利用による情報収集の方法を学ぶ。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
あいの里と自分たちとの関わりを考えよう	9 ③	あいの里地域と自分たちの関わりを考えよう① 課題の設定	2	・ブレインストーミングによる情報を引き出し方や、K J 法による情報のまとめ方を学ぶ。＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ・あいの里地域と自分たちの関わりについての課題を設定する。 ＜問題や課題を発見する力＞
	9 ④ 10 ①	あいの里地域と自分たちの関わりを考えよう②③ 情報の収集	4	・同じ課題を設定した者で探究グループをつくり、テーマを設定し、調査活動の計画を立てる。＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	10 ②	フィールドワーク② 情報の収集	3	・設定したテーマについて、計画した調査方法で、あいの里地域について調査する。 ＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	10 ③	どのように伝えればよいのだろうか① 情報の収集	2	・フィールドワークで調べた情報を整理、分析し、まとめ方について考える。 ＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	11 ②	どのように伝えればよいのだろうか② 整理・分析	2	・大学図書館やインターネットを利用し追加の情報について調べ、課題解決を図る。 ＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	11 ④	どのように伝えればよいのだろうか③ 整理・分析	2	・収集した情報を整理し、まとめる。 ・情報の伝え方、発表の仕方を考える。＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	12 ①	学年内発表会 まとめ・表現	2	・学年内発表会を行い、情報の伝え方、発表の仕方を考える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	12 ②	どのように伝えればよいのだろうか④ 整理・分析	2	・学年内発表会から、自分たちの発表を見直し、修正を加える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	1 ④	どのように伝えればよいのだろうか⑤ 整理・分析	2	・学年内発表会から、自分たちの発表を見直し、修正を加える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	2 ①	「これが私の生きる道」発表会への参加 まとめ・表現	2	・情報のまとめ方や発表の仕方について学ぶ。 ・来年度の取り組みへの見通しをもつ。 ＜問題や課題を発見する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	2 ②	「あいの里子どもフォーラム」(前日準備) まとめ・表現	2	・収集した情報を整理し、まとめる。 ・情報の伝え方、発表の仕方を考える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	2 ②	「あいの里子どもフォーラム」 まとめ・表現	2	・あいの里地域について発表交流を行う。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	2 ③	「あいの里子どもフォーラム」の振り返り 必要な情報を伝えることができたかどうか まとめ・表現	2	・課題を解決することができたかを振り返り、成果と課題を捉える。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
まとめ	2 ④	1年間のまとめ 総合的な学習の時間でどのようなことを学ぶことができただろうか	1	・1年間の総合的な学習の時間での学びを振り返り、成果と課題をまとめる。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞

【2 学年での総合的な学習の時間】

(1) 2 学年での総合的な学習の時間の目標

社会について考える探究的な学習において、主体的に他者と関わりながら、自らの理想とする生き方を追究することを通して、以下の資質・能力を育成することを目指す。

- ① 理想の生き方を描き、それを実現すべく一步を踏み出すために必要な技能や概念的な知識を獲得し、探究的な学習の価値を理解する。
- ② 社会について考える探究的な学習を通して、理想の生き方について考え、情報を収集・分析して他者に表現する力を育む。
- ③ 主体的・協働的な探究活動の経験を自らの生き方と結び付け、理想の実現に向けて積極的に取り組むとともに、自らの生き方と社会とのつながりに気づき、社会に参画しようとする態度を養う。

(2) 年間計画（70時間）

小単元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
オリエン テーション	4 ⑤	オリエンテーション 理想の生き方とは何か	2	・1年次の学習を振り返る。 ・人生に影響を与える要素を考える。 ・1年間の見通しをもつ。
「生きがい」 を考えよう ①	5 ① 5 ②	理想の人生を描く 課題の設定	2	・自分年表を作成する。 ・自分年表を交流する。 ・自分にとって「生きがい」とは何かを考える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜問題や課題を発見する力＞
	5 ② 5 ③	身近な大人に聞く 「生きがい」とは① 情報の収集	2	・保護者にインタビューする。 ・インタビューした内容をまとめる。 ・インタビューした内容を交流する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
「働くこと」 について考えよう	5 ③	人はなぜ働くのだろう 課題の設定	1	・自分年表を振り返る。 ・働くことの意味を考える。 ＜問題や課題を発見する力＞
	5 ④ 5 ④	職業調べ 情報の収集 整理・分析	3	・書籍やインターネットを用いて色々な職業を調べる。 ・自分の「生きがい（候補）」につながりそうな職業についてまとめる。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜他者と協働する力＞
	6 ① 6 ②	先輩に聞く ※1 【実践例2】 情報の収集	4	・就職を間近に控えた大学生に職業選択の実際を聞く。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	9 ②⑤ 10 ①	職業体験準備 情報の収集・調べ方	6	・職業体験先について下調べをする。 ・職場体験先にアポイントメントをとる。 ・職場体験のマナーを身に付ける。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞
	10 ②	職業体験 ※2 （総合的な学習の時間の日）	12	・2日間同じ場所で職業体験を行う。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞
	10 ③④⑤ 11 ②	職業体験のまとめ まとめ	8	・礼状を書く。 ・職業体験で学んだことをまとめる。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	11 ②	保護者から学ぶ 「働くことを語る会」 表現	2	・保護者を招いて、「人はなぜ働くのだろう」「働くとはどういうことだろう」をテーマに座談会を行う。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜他者と協働する力＞

小単元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
	11③	私にとって「働く」とは まとめ → 課題の設定	2	・自分にとっての働くことの意味や、それを実現するための道筋をまとめる。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
「生きがい」について考えよう②	11④ 11⑤	身近な大人に聞く 「生きがい」とは② 情報の収集	5	・「働くこと」以外に「生きがい」を見出している地域の方、卒業生をゲストに招き『「生きがい」を語る会』を開く。 ＜他者と協働する力＞
	12①	先輩から学ぶ	2	・3年生の総合討論会に参加し、発表の仕方を学ぶとともに、来年度の学びの見通しをもつ。 ＜問題や課題を発見する力＞
	12②	私の「生きがい（候補）」 まとめ・表現	2	・『「生きがい」を語る会』を通して学んだことをまとめる。 ・これまでに学んだことを参考に、今考えられる範囲での私の「生きがい（候補）」を色紙に書いて発表する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
「理想の生き方」を考えよう	12③	今の自分にできること 課題の設定	3	・理想の生き方を実現するための課題を設定する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	12④	理想の生き方に近づくために① 整理・分析	2	・課題を解決するための方法を計画し実践する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	1③	理想の生き方に近づくために② 整理・分析	2	・実践の成果を検証し改善する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	1④	私はどう生きるべきか 課題の設定	2	・これまでの学習の成果をふまえてこれからの自分の生き方を考える。 ＜問題や課題を発見する力＞
	1⑤ 2①	思いを伝える発表方法とは まとめ・表現	5	・自分の生き方を他者に伝えるための方法を考え準備する。 ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	2②	「これが私の生きる道」発表会 まとめ・表現	2	・自分の生き方を保護者、1年生、クラスメイトに宣言する。 ＜社会の一員として一翼を担うことの意識や態度＞
振り返り	2③	1年間の振り返り	1	・1年間の取り組みを振り返るとともに、来年度に向けての見通しをもつ。 ・第2学年の総合的な学習の時間の名前を考える。

【3 学年での総合的な学習の時間】

(1) 3 学年での総合的な学習の時間の目標

地域や社会の問題について考える探究的な学習において、多様な他者と関わりながら、主体的、協働的、創造的に問題の解決へ向かい、社会との関わりの中での自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

- ① 自らの問題・目的を解決する探究的な学習を通して、様々な情報を多角的に捉え活用する技能と概念的知識を獲得し、探究的な学習の意義を理解する。
- ② 探究的な学習を通して、自ら問題や目的を設定し、研究の見通しをもちながら必要な情報を収集・分析しながら、よりよく問題を解決する力を育む。
- ③ 主体的・協働的、創造的に探究的な学習に取り組み、社会を担う一員として社会に参画するための力や態度を養う。

(2) 年間計画（70時間）

小单元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
オリエンテーション	4 ③	オリエンテーション どんな社会を創り上げたいか、 理想の社会を考える 課題の設定	2	2年生までの学びを振り返り、どのような力が身に付いたかを確認する。 2年生時に描いた理想の姿、春休み中に調べた社会問題を踏まえ、どのような社会を創り上げたいのかを交流し、そのために自分達は何ができるのかを考える。 - 社会に参画していくためにどのような力が必要かを考える。 1年間の研究の道筋を示す。 ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞
	4 ④	研究はどのように進めるのだろう 情報の収集	2	大学の先生から、研究とは何か、これからどのように課題を設定して、解決に向かっていくのかを講義していただき、研究することの意義を感じる。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
理想の未来を描き、 社会の問題を捉え、 目的を設定しよう	5 ③	理想の社会をつくりあげるために、 何ができるのか問題意識をもつ 課題の設定	2	理想の社会を創り上げるために、どのような問題を解決していかなければいけないのか問題意識をもつ。 ＜問題や課題を発見する力＞
	5 ④	目的を見い出す① 問題意識から疑問文をつくる 課題の設定 情報の収集・整理・分析	2	＜選択追究＞ - 自分の理想とする社会からイメージマップを広げていき、問題（意識）をもつ ＜問題や課題を発見する力＞ - 目的設定を視野に入れて、問題（意識）からさらにイメージマップを広げ、そこから疑問文を作っていく。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	6 ①	目的を見い出す② 目的を設定し、検証しよう 課題の設定 情報の収集・整理・分析	2	＜選択追究＞ 自分が解決したい問題のキーワードから疑問文をつくり、①調べたらすぐに解決してしまうものではないか②自分の能力に合うか③興味を持っているかどうかの3点で検証する。 ＜問題や課題を発見する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	6 ②	目的を見い出す③ 研究の設計図を描こう 課題の設定 情報の収集・整理・分析	1	＜選択追究＞ - 研究の設計図に具体的な研究計画を立てる。 - 昨年度のAWの取り組みを紹介する。 ＜問題や課題を発見する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	6 ③	目的と研究計画を整理しよう まとめ・表現 課題の設定	2	現在の目的や目標、研究計画について研究の設計図をもとに中間報告会を行い、仲間と交流、評価を行うことで、自分の計画を見直し修正を図る。その中でAWに関して、できることに関するアイディアを可能な限り仲間とともに考える。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞＜他者と協働する力＞
	6 ④ ～6 ⑤	調査活動 情報の収集	4	- 大学図書館やインターネットを活用するなどして、研究計画に基づいた調査活動を行う。 - フィールドワーク①の意義について理解し、調査したことをもとに何をさらに調べたいのか、どのような活動をするのかを決定する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞

小单元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
自己の目的を解決するために、研究を進めよう	7 ②～ 7 ③	フィールドワーク①の計画を立てる 情報の収集・整理・分析	3	・フィールドワーク①の内容を具体的に検討する。 ・活動計画書を作成し、フィールドワーク①の見通しをもつ。 ・インタビューの内容を考え、依頼状を作成する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	7 ④	リサーチする内容を精選しよう 【研究授業（本時2/2）】 整理・分析	2	・1回目のフィールドワークでのインタビュー内容やアンケート内容、AWを行ってから行う評価内容を考える。 ・「ハイ・ローマトリクス」を用いて、リサーチする内容を精選する。 ・仲間との交流を通して、どのようなリサーチ内容にすることで目的の解決に近づくのかを検討する。 ＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	8 ⑤	フィールドワーク①の確認	1	・フィールドワークについて最終確認をする。
	9 ①	フィールドワーク① 情報の収集	3	・フィールドワークを実施する。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞
	8 ⑤	フィールドワーク①のまとめ 中間研究交流会 整理・分析 まとめ・表現	2	・訪問先、お世話になった方への礼状を作成する。 ・フィールドワーク①を通してどのようなことが解決できたか、これから研究を進めるのにどうしたらよいかについて、グループで討論をする。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
今までの研究の過程を振り返り、研究を深めよう	9 ①	研究の設計図を再考する 課題の設定 情報の収集・整理・分析	2	・大学の先生から、自分の目的を解決するために、これからどのように研究を進めていけばよいかを講義していただき、自分の研究計画を再考する。 ＜問題や課題を発見する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	9 ②	フィールドワーク②の検討 情報の収集・整理・分析	2	・フィールドワーク②の行き先を決定する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	9 ③ 9 ④	フィールドワーク②の計画を立てる 情報の収集・整理・分析	3	・フィールドワーク②の内容を具体的に検討する。 ・活動計画書を作成し、フィールドワーク②の見通しをもつ。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	9 ⑤	討論会に向けて フィールドワーク②の最終決定	1	・討論会について知り、これからの活動について見通しをもつ。 ・フィールドワーク②の訪問先を決定する。
	10 ①	討論会に向けて 相手に応じた議論の仕方を考えよう 情報の収集・整理・分析	1	・討論会に向け、国語や英語で学んだ議論の仕方を確認する。 ・①2年生②保護者・訪問先の方を意識した議論を実際に行い、討論には何が必要かを考える。（①引き出す工夫②反論の予想③合意形成の構築） ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜他者と協働する力＞
	10 ②	フィールドワーク②の確認	1	・フィールドワークについての最終確認をする
	10 ②	フィールドワーク② （附属総合の日） 情報の収集	3	・フィールドワークを実施する。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞
	10 ③	フィールドワーク②の振り返り 整理・分析 まとめ・表現	2	・フィールドワークの振り返りを行い、課題解決に向けての方策を再考する ・礼状を作成する。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力を高める＞

小単元	時期 月・週	タイトル 探究的な学習の姿	時 数	学習活動の例 ＜社会参画力の視点＞
	10④	ブレ討論会 まとめ・表現	2	・フィールドワーク②を通してどのようなことが解決できたか、どのように研究をまとめていけばよいかについて、グループで討論をする。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
研究の成果を伝えよう	10④～11②	討論会準備 整理・分析 まとめ・表現	6	・討論会の概要を理解する。 ・資料の作成を通して、これまでの成果と課題をまとめる。 ・討論会のリハーサルを行う。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞
	11②	新総合討論会＜1回目＞ 2年生との討論会（3時間） （前日準備2時間） 情報の収集・整理・分析 まとめ・表現	5	・2年生に対して発表を行い、それぞれの目的に対して討論する。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	11③	1回目の討論会を振り返って 整理・分析	2	・1回目の討論会を受けて、課題を整理し、発表内容を再考する。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞
	11③	新総合討論会＜2回目＞ 保護者・一般参会者・本校教職員 （準備・片づけふくめ4時間） （前日準備2時間） 情報の収集・整理・分析 まとめ・表現	6	・一般参会者への発表を行い、これまでの評価をいただく。 ＜問題や課題を発見する力＞＜他者と協働する力＞ ＜情報を活用し、プランニングしていく力＞ ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	11④	討論会の振り返り 課題の設定	1	・討論会を振り返り、これまでの成果やいただいた評価をもとに、研究と研究の設計図を見直す。 ・まとめ集作成に向けた見通しをもつ。 ＜情報を活用し、プランニングしていく力を高める＞
	12①～③	総合的な学習の時間 まとめ集の作成 まとめ・表現	4	・まとめ集の作成を行う。 ・総合的な学習の時間の学びを通して、自己の生き方についてどのように考えることができたかを記す。 ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識を高める＞ ＜様々な情報を多角的に捉え活用する技能と、探究的な学習を通して獲得する概念的知識＞
	2④	総合的な学習の振り返り	1	・自分達の1年間の活動の意義を考える。 ＜社会の一員として一翼を担うことへの意識や態度＞

V 実践例（第1学年、第2学年）

【第1学年での総合的な学習の時間の実践】

1学年のオリエンテーションでは、「課題の設定」「情報の収集」「整理の分析」「まとめ・表現」といった「探究的な学習」の一連のサイクルを体験できる「TAN-Qゲーム」を考案し、「探究的な学習とはどのような学習なのか」を考える場とした。この「TAN-Qゲーム」では、「自動車の完全自動運転は必要だろうか」という課題について、「仮説の設定」「情報の収集」「情報の分析」「まとめ・表現」の各過程を時間で区切り、自分たちの考えを仲間と議論しながらまとめていくものとした。このように探究のプロセスを一通り経験することで、これからの学びに見通しをもつと共に、自分に足りない力や身に付けていきたい力を明確にしていくことを期待した。

「仮説の設定」の場面では、6名ずつのグループに分かれ、「自動車の完全自動運転は必要だろうか」という課題について、自分たちの考えをまとめた。生徒は、自分たちの経験や知識の中から考え「こうだから、自動車の完全自動運転は必要だ（必要ではない）」といった仮説を設定した。

次に、「情報の収集」の場面では、情報を1つランダムに選び、選んだ情報の内容についてグループで検証した。集めた情報カードの内容により、自分たちの立てた仮説がより確かなものになったグループと新たな疑問や問題が生じたグループに分かれた。生徒からは、自分たちの課題を解決するためにもっと情報がほしいという声が上がった。そこで今度は、自分たちが必要な情報をグループで検討した上で情報を選択することとした。このようにはじめからたくさんの情報を与えるのではなく情報を絞ることで、情報の必要性に気づき、情報を適切に選択する力を養うことができたと考える。



【集めた情報を分析する生徒の様子】

次に「情報の分析」の場面では、集めた情報をもとに活発に議論する姿が見られた。はじめは、「コンピュータは故障するかもしれないので、自動車の完全自動運転は必要ない」と考えていたグループが、「高齢者の不注意による事故防止や、運送業などの慢性的な人手不足を解消するためには、自動車の完全自動運転も必要である」と考えが変化したり、「交通渋滞の緩和など環境を配慮すると、運転サポートの技術まで必要である」などと自分たちの考えをより具体的にまとめたりすることができた。このように、集めた情報を整理し、自分たちの始めの考えと照らし合わせ、課題に対する自分たちの答えを検証することで、様々な視点から情報を分析する力を養うことにつながったと考える。

最後に、「まとめ・表現」の場として、自分たちの考えを、4枚のポスターにまとめ5分間のプレゼンテーションをグループごとにおこなった。「自分たちの考えた内容を、相手にわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいだろうか。」という問いを生徒に投げかけると、話し方などの工夫や、プレゼンテーション資料の見やすさ、内容を具体的に伝える工夫などについて考え、自分たちの発表につなげる生徒の姿が多く見られた。



【自分たちの考えを仲間に伝える生徒の様子】

このようにオリエンテーションにおいて「探究的な学習」の一連のサイクルを経験することで、今まで漠然としていた「探究的な学習」の学びの過程が明確になり、その後の、あいの里地域を知ることが題材とした「探究的な学習」のプロセスに大きく寄与することができた。また、これらの学びの過程に仲間と協働して取り組むことで、社会に目を向け、社会の問題に対する新しい考えに気付いたり、仲間と共に新しい答えを導き出したり、互いの価値を認め、共に学ぶ楽しさや次への意欲にもつなげることができたと考える。

【第2学年での総合的な学習の時間の実践】

「生きがいとは何か」を探究する学習を通して理想の生き方を描く過程において、フィッシュボーン図や自分年表を活用して理想の生き方を具体化しようと試みた上で、さらなる具体化を図るために「大人に聞いてみるのが有効ではないか」という見通しをもち、「保護者へのインタビュー」を設定した。昨年度の学びを活用し、効果的に情報を収集するためには「いきなり質問するのではなく、聞きたいことを引き出しやすい雰囲気作りが重要だ」「何を聞くと課題解決に結びつくか考え、深めていくための質問の準備が必要だ」などの意見を交流した上でインタビューを行い、生きがいの中には「子供の成長」や「好きなこと」のほか、「働くこと」が共通項として挙げられることを見いだした。

そこで、「人はなぜ働くのだろうか」という新たな課題を設定し、他者との関わりの中から見いだす学習活動を展開した。「収入を得るため」や「達成感を得るため」のほか「人の役に立つため」「社会をよくするため」など、働く理由には多様性が見られ、様々な価値観に出合うことの大切さを実感するとともに、自分の職業の決定にはどのように進めていくのかという課題意識をもつことにもつながった。

この、自らの経験だけでは解決できない課題を探究するために、職業を決定し、就職を間近に控えた大学生や大学院生に職業決定の実際を聞いて情報を収集するという活動を設定した。大学生・大学院生という相手意識をもち、ふさわしい聞き方はどのようなものか、聞き出したいことは何か、聞き出したことに対してさらに深めていく工夫はどのようなものかを事前の準備段階で検討し、自分たちはどのように職業を選んでいけばよいのか、何を優先して決めていくとよいのかという課題を探究することにつながった。



【大学生・大学院生との「働くこと座談会」】

「保護者へのインタビュー」と同様に、身に付けた知識や技能を生かし、話を広げる聞き方やアイスブレイクの方法を吟味したが、昨年度の「小学校3年生との交流会」や「入学前交流会」とは異なり、「教える」側ではなく「教えられる」側になることで、既習の知識や技能を活用しながら、さらに高め合う必然性を生み出した。

この交流会を通して、大学生や大学院生からは「多様な経験を積むことで視野を広げたり、将来に向けて何らかの決定を急ぐのではなく、選択肢を増やしたりすることの大切さ」や「自分自身をより深く知ること目標を立てたり、今の状況の中でできることを精一杯行ったりすることの重要さ」などの新たな情報を収集することができ、今後の学習に向けて必要な情報を整理・分析していく力の育みにつながった。また、生徒同士の関わりの中だけでは見いだせなかった新たな視点での気付きにも結びついた。

さらに、実際に行う中で、「貴重な情報だからこそ記録を取りたいが、相手の目を見てしっかり聞くということとの両立が難しい」「雰囲気づくりのためには表情も大切で、自分の表情がどのように見えているのかを知ること大切だ」など、次の学びである職業体験学習に向けた新たな課題も見いだすことができた。

これらの取組から、「生徒自身の必要感に応じた」「学んだ知識や技能を活用できる」学習展開の設定が、探究の過程において育成を目指す資質・能力の獲得に有効に機能することに結びつくと考える。

座談会では自分達の今まで学びを促すこともでき、新たに学ぶ深めたりすることでもできて良かったです。大学生の方から色々なことを教えてもらって仕事を決定する上で大切なことなども聞けてなるほどなと思いました。特に仕事をするときによい所だけでなく悪いところを覚えておこうという考え方にはとてもおもしろかったです。でもよい所ではない視点から見て気付くところもあるとわかりこれからの学習にとっても活かせると思いました。今日、大学生の

【「働くこと座談会」を終えた際の振り返りシートの記述】

VI 実践から見えてきたこと

2年次研究は、1年次に構築した「社会参画力」を柱とした総合的な学習の時間を実践する段階に入った。まず、はじめに全学年で取り組んだのは、ガイダンスの充実である。これからの本校の総合的な学習の時間の柱となる「社会参画力」とはどういう力なのか、どうしてその力を養うことが求められるのかについて、これからの社会や今までの生徒の経験などを交流しながら考えていった。また、「探究的な学習」とはどういう学習なのかといったこれから行う探究的な学びのサイクルについても整理をした。その上で、今までの自分たちの学びを振り返り、1年後の自分の姿を想像し、総合的な学習の時間を通してどのような力を付けていきたいかを考え「学びの履歴」として記録した。

第1学年のガイダンスでは、【実践例1】のように、「TAN-Qゲーム」と題し、「課題設定」「情報の収集」「情報の分析」「まとめ・表現」といった探究的な学習の一連のプロセスを経験した。生徒からは、「みんな、それぞれ違う考えをもっていて、いろんな角度から答えを考えることが楽しかった。」「もっと様々な情報を集めたかった。」「探究的な学習の流れがわかった。積極的に情報を集めたり、集めた情報を仲間と考えたりして答えを出していきたい。」などといった感想が多くあげられた。

第2学年では、1年次の学習を振り返りながら、生きがいとは何かを考え、フィッシュボーン図や自分年表を活用して自分の理想の生き方を具体化し、自分の課題の設定につなげた。また、保護者に対してインタビュー活動を行い、自分の立てた課題や見通しをより確かなものにした上で、就職を間近に控えた大学生に職業選択の実際を聞く場面【実践例2】を設定した。これにより、1年次に学んだ知識や技能を活用し、それらをさらに高めていく必然性を生むとともに、「職業を選ぶためには様々な経験をするのが大切」や「色々な人や社会との関わりの中で自分の視野を広げていくことが重要だ」という自分たち同士での交流では気付かなかった視点を獲得し、これらの情報を整理・分析していく力の育みにつながった。

第3学年では、「どのような社会を創り上げたいのか」というテーマのもと、これまでの学びを振り返り、どのような社会を創り上げたいのかを仲間と交流した。振り返りの場面で生徒からは、「人間関係を形成する力は、これから出会う様々な人とのコミュニケーションに役立つだろう」「情報を活用する力は、様々な教科の授業の中でも役立っている」「2年次の職場体験では、働きがい重要と知ったから、そのような職業に就けるように取り組んでいきたい」などの感想があげられた。その上で、今予想されている2030年の社会の姿を伝え、そのために自分たちは何ができるのか、社会に参画していくためにはどのような力が必要なのかを考え、1年間の研究の道筋を整理した。

どの学年においても、今までの学びを整理した上で、これからの社会を考え、具体的に自分の考えや思いを整理しまとめることで、探究的な学習を通して地域や社会における問題や課題を発見していくことや、解決のための明確な見通しをもつことに一定の成果を上げることができた。今後、それぞれの発達段階に応じた探究的な学習のプロセスを繰り返しながら、主体的に社会と関わり、社会における問題や課題を発見する力や、解決のための計画を立てる力、社会の一員としての意識や態度を育んでいきたいと考えている。また、各教科・領域での知識や技能についても横断的・総合的に活用できるように学習過程を整理し、より効果的に働かせるとともに、地域・社会・大学とのつながりや保護者と連携についても整理していきたいと考えている。

VII 参考文献

- ・田村 学『授業を磨く』東洋館出版社、2015年
- ・奈須 正裕『答えなき時代を生き抜く子どもの育成』図書文化、2011年
- ・松尾 知明『21世紀型スキルとは何か』明石書店、2015年
- ・三宅なほみ『21世紀型スキル』北大路書房、2014年